

① 天 才
② 親
③ 小 言

④ 手 間
⑤ 音 色

② 1 A ア
B ウ
2 イ

3 ク ー リ ー

4 エ
5 直 接
6 ア

7 ア ○
イ ×
ウ ○

③ 1 A ウ
B ア
C イ

2 エ
3 南 の 海

4 遠 く

5 お 母 さ ん

6 波 の し

配 点	
①	各2点×5=10点
②~③	各5点×18=90点
＜計＞100点	

①の「天」、「才」はどちらも字形に気をつけよう。③は「小事」と書かないようにする。

②

- 1 A どうして「カレー（カリ）」と呼ばれるようになったのかという問いかけに対する答え（説）を（A）の前後で並べている。
- B （B）の前後の内容が原因結果の関係になっている。
- 2 ことばには、一つのことばにいくつかの意味を持つものがある。ふだんからこまめに辞書を引く習慣をつけよう。
- 3 「おいしいよ」という意味のことばで、「カーリー」に変化したことばのことばである。
- 4 次の一文に「その場所については、オランダという説が有力です」と書いている。
- 5 反対語の組み合わせの中には、一字が共通しているものがあるので、手がかりにしてみよう。
- 6 最後の段落に「タミール語がカレーの語源だという説が、一般にはもっとも有力視されています」と書いているので、「タミール」を手がかりにさがすと、第二段落に書いている。
- 7 ア 第三段落に書いている。
イ 「南部」ではなく「北部」である。
ウ 第二段落に書いている。

③

- 1 それぞれあとに決まった言い方がくることばである。Aは「くのようにした」、Bは「くください」、Cは「くませんでした」につながる。ことばをえらぶ。
- 2 場面が夜であることや①のあとにある「つつんでいました」から考える。
- 3 直前の「お母さんくじら」のいのりのことばに「はるかに遠い南の海へと、旅する力をおあたえください」と書いてあった。
- 4 「歌」を手がかりに——線③の前をさがしていく。二行前にある「その歌」も同じことばを指している。
- 5 直後に「ぼうやはそう言って、（C）歌をおぼえようとしませんでした」とある。どうして歌をおぼえないといけないのかというと「その歌（遠くにいるなかまに呼びかける歌）さえ歌えれば、……ひとりぼっちにならずにすむ」からなのだが、ぼうやは「ぼくには、④がいるから（なかまがいなくても）いいもん」と言っている。「なかま」のかわりになる存在は本文中には「お母さん」しかない。
- 6 「南の海」へと旅立つ前と後で分ける。